

## 第1回鎌倉のごみ減量をすすめる会の概要

日時	平成23年11月8日(火) 午後6時30分～午後9時
場所	鎌倉市役所第4分庁舎811会議室
出席者	市民 計13名 鎌倉市 松尾市長他4名 〔松尾市長、相澤環境部長、小池環境部次長兼ごみ減量・資源化推進担当担当課長 谷川資源循環課課長代理、松井ごみ減量・資源化推進担当担当主査〕
配布資料	・鎌倉ごみ行動チーム(仮) 受付簿
議題	1 市長挨拶 2 会の理念、目標、名称について 3 質疑応答 4 チームごとの話し合い 5 まとめ

### 内 容

市長挨拶のあと、前回会合以降にコアメンバーで話し合った内容、会の理念、目標、名称について事務局より説明、提案を行いました。質疑応答の後、休憩をはさんで、具体的な活動内容ごとのチームに分かれ、各チームでどのような活動ができるか等について話し合いました。

主な内容は以下のとおりです。

#### 1 市長挨拶

松尾市長：本日は大変お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。また、コアメンバーの皆様には、本日に至るまで何度も議論を重ねて頂き、心から感謝申し上げます。

本市のごみ処理の状況ですが、昨年に比べると少しずつ減少してきているというデータがあります。これまでで前年比約900トン減少してきているということで、内訳や理由はまだはっきりしていませんが、皆様方のこうしたご協力や広報のおかげもあると思っております。皆様の取り組みに改めて感謝いたします。

本日は、これまでコアメンバーの方々が考えてくださったこと、また今後どのように進めていくかのお話をさせていただきます。本市では3Rを進めていますが、発生抑制をいかに実践しごみを減らしていくかが大変重要であると思っております。本日の会合を通じて、皆様方ができること、そして行政と協働してできることをお話しする中で、新たな施策展開につなげていければと思います。

本日は皆様方の貴重なお時間を頂いていますので、有意義な時間となるよう、私も精一杯参加していきますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### 2 会の理念、目標、名称について

松井：本日の流れを確認する。今回は9月1日の開催だったが、この会の目標、名称、具体的にどのような活動ができるのかについて、非常にたくさんの意見が出た。その中で、10人の方にコアメンバーになっていただき、現在までの間に話し合いを行っていただいた。まずはその内容の報

告をさせて頂き、その後に、会の目標等について、ご意見を頂きたい。

そのあと休憩をはさみ、こちらに示した具体的な活動ごとの5つのグループに分かれて頂き、グループ内で討議をお願いしたい。

まずコアメンバーの方々の話し合いの結果を、事務局から説明させて頂く。この会「鎌倉ごみ行動チーム」の設立の理念、行動の目標については、9月1日の会合でも色々なご意見が出たところだが、コアメンバーの討議でも、ごみ焼却量ではなく、私たちの生活から発生しているごみの量を減らすことを目指すべきではないか。リサイクルに要する多くのエネルギー等を考えると、リサイクルをすればそれで良いという考え方を見直すべきではないか、また昨年度まで計画があった山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設の建設も絡み、市の政治的な部分に係わってしまうのではないかと、といったご意見があった。

しかし、そもそもこの会は行政が呼びかけた会であること、喫緊の課題としては焼却施設の問題からごみの焼却量をまず減らすべきではないか、というご意見のほか、何かしら実際の行動に踏み出し一歩前進すべきではないかという点からも、9月1日に原案として示した設立理念「鎌倉の「ゆりかごからゆりかごへ」のまちづくりを、ごみの3Rの視点から考え行動すること」を会の設立理念とし、行動の目標「平成27年度末までに鎌倉のごみ焼却量を今より1万トン以上減らすこと」を会の目標とし、この二つを掲げて活動することを皆さんに提案したいという結論になった。

次に、会の名称について、今まで「鎌倉ごみ行動チーム」として皆様に参加を呼びかけてきたところだが、この「行動」という言葉は、他に意思決定機関があった上でこの会では作業をするというイメージがあり、ふさわしくない、といったご意見があった。そこで、「鎌倉のごみ削減を進める市民の会」「鎌倉市民ごみ減量プロジェクト」「鎌倉のごみゼロを目指す会」「目指せゼロ・ウェイスト鎌倉プロジェクト」「鎌倉ゼロ・ウェイストのまちづくりプロジェクト」等の候補が挙がった。

それらの名前を比較検討したところ「ゼロ・ウェイスト」という言葉は一般の方にはなかなかご理解を頂けないのではないかと、また、小さなお子さんでも分かるような名称にした方が良く、といった点から「鎌倉のごみ減量をすすめる会」で皆様に提案することになった。「すすめる」とは、「勧める」「一歩進める」と複数の意味があるため、ひらがなにした。

次に具体的な行動だが、9月1日の会合で出された様々なご意見を集約し、「生ごみの減量を進めるチーム」「発生抑制チーム」「自治町内会を通した啓発チーム」「他市の事例研究チーム」「新たなごみ施策の検討チーム」の5つに整理した。

「生ごみの減量を進めるチーム」としては、例えば生ごみ処理機の活用、水切り、冷蔵庫の棚おろし、市民農園といった事項が含まれると想定している。

「発生抑制チーム」では、マイカップやマイボトル、マイ箸などによってごみを出さないライフスタイル、事業系のごみ、お店での買い物の仕方、過剰包装といったテーマが考えられる。

「自治町内会を通した啓発チーム」では、町内のお祭りや、ごみに関心の無い方にいかに伝えていくか、イベントやその他自治町内会の中に我々が入って行き話をするといったテーマが考えられる。

「他市の事例研究チーム」では、全国にある市民と行政の協働事例について、例えば葉山町、町田市、札幌市、京都市といった都市での事例を研究することで、私たち鎌倉市民も負けないくらいの活動ができるのではないかと考えている。

「新たなごみ施策の検討チーム」では、鎌倉市のごみ行政について、平成8年のごみ半減計画の頃から延々と取り組んできたが、行政の取り組みに根本的におかしいところや改定すべきところがあるのではないかと、というテーマを扱うチームとした。

そして、本日の会合がまとまれば、できれば本日を第1回の「・・・の会」の会合と位置付け、参加するメンバーについて改めて登録をさせて頂きたい。今まで多くの方に「鎌倉ごみ行動チーム（続）準備会」への登録をしていただき、また登録はしていないが参加して下さっている方もいる状況があり、この機会に一旦整理させて頂きたい。すでにいただいている情報については、あらかじめ事務局が記入用紙への記入を済ませた状態で記入用紙をお渡ししている。

記入用紙では、まず会に加入するかどうか、全体会に参加希望かどうかをおたずねしている。今後は各チームに分かれて活動する想定だが、鎌倉のごみ行政について情報を得たいので全体会だけに参加すればよいという方もいらっしゃるのでは、このような設問になっている。

通知の方法については、電子メール、郵送等を、またメールアドレスのメンバー間での公開の可否やファイル添付の可否についても伺っている。最後に、この会は、市民、事業者、行政の協働の場であることから、実際に参加している方が市民なのか事業者なのかの区分けは難しいが、例えばお店をやっている方がお店をやる側の立場としての発言をしていただけるのかを伺いたく、質問を設定してある。

本日ご欠席の方についても、後から同様の用紙を郵送して登録をお願いする。

### 3 質疑応答

市 民：先程、3Rだが排出量を少なくすることが重要という説明があったが、コアメンバーの間でも3Rではなく2R（リデュース、リユース）を大々的にやるべきだという意見があった。日本のリサイクル関連法整備の流れに立ち返ってみると、行くところはやはり2Rである。でも直接2Rを理念として出してしまうと過激なので、3Rということを行っている。3Rを目指そうという理念の中には、究極的には2Rを目指そうというところが入っている。

今後の行動を通して、大量生産大量廃棄から、排出抑制にいきいたいと考えている。コアメンバーの中でもそういったことをもっと前面に出すべきだという意見もあった。

松 井：コアメンバーの方には今までに2回集まっていたいただき、議論した結果を本日お諮りしている。理念と行動は不可分というところで、この会の理念と目標について、一括して提案した内容をもとに議論を進めさせて頂きたいと思っている。

市 民：目標は明確になっています。そのためには3Rがあると思うが、リサイクルは当然必要で、あえてリサイクルのRを除かなくて良いと思う。基本的に世界では3Rが進められているので、この理念はおかしくないと思う。

松 井：では、理念はこの通りとさせて頂いてよろしいか。（一同異議なし）

次に、鎌倉ごみ行動チームからの名称変更について、最も多くの要素を包含しつつ、小さなお子さんからお年寄りまで分かりやすい名称として「鎌倉のごみ減量をすすめる会」を考えたかどうか。

市 民：「環境ニュース」が今年10月から「鎌倉ごみ減量通信」に変わったことと何か関係はあるのか。

松 井：関係はない。お互いが全く別の考えで名称を考えており、お互いを参考にしていることはない。

- 市 民：経過を良く知らないが、なぜ変えるのか。何か変える必要があるのか。
- 市 民：行動チームという名前だと、何か1つの行動をするための目的のグループのようで、色々なアイデアでいろいろなことをやっていく中で、この名称では偏りがあるというか、名前に1つのイメージがついてしまうのではないかということで、原点に帰って「ごみの減量を進める会」というような名前にしてはどうかというご意見が皆さんから出て、先程紹介されたような様々な候補の中から、一番すっきりしている「鎌倉のごみ減量をすすめる会」が良いのではないかといい意見になった。
- 松 井：NPO団体等にするといった目的があって名称変更するのではなく、皆さんに入ってきていただきやすく、かつ会の活動を包含するよという趣旨である。
- 市 民：ごみの代わりに「廃棄物」という言葉は使わないのか。よく「廃棄物ゼロ社会を目指して」などと言われているが。
- 松 井：廃棄物にもいろいろあるが、鎌倉市では燃やすごみを減らすということが課題になっている。また、市民の方にも「ごみ」の方がより入ってきてやすいのではないかと考えた。
- 市 民：コアメンバーの会議では、ごみ減量よりも、ゼロ・ウェイストや、プロジェクトといった表現が出されたが、プロジェクトというと一点突破的な感じがあるし、「会」でいいのではないかといい結論になった。
- 市 民：新たな施策研究チームというのは、先程行政に対してという話があったが、それは自分たちが市民としてできそうなテーマを設けて、それを市の方に提案をするというイメージか。会やチームという名前であっても、やはり鎌倉市として、市の職員と話し合っ提案するという意味合いなのか。
- 松 井：これまでに、行政つまり市の職員は何をやってきたのか、やり方がおかしいのではないかといいご意見があった。例えば生ごみ処理機の普及について、行政の市民へのアプローチの仕方が違っているのではないか、あるいはごみを減らすために今まで市は何をやっていたのか、環境教育を推進すべきではないかといった意見が出されている。そういった点を議論したいということだと受け止めている。
- 市 民：コアメンバーの会合で意見を言ったのは私だが、市民が積極的にごみの減量化を考えるというこの会で、今後いろいろなチームに分かれて具体的にどうすべきか議論する中で、市民が行政に対して「行政はこんなことをしたらどうか」と提案していく必要があるのではないかと考えた。小金井市は市長が1期の途中でごみ問題で責任をとって辞めた。鎌倉市もいま重要な時期だと思う。そういう意味では、私たちも市民が検討する中で、ごみ問題の解決を市に対して意見していくことで、初めていいバランスになる。政策提案型のことをやるチームだと思う。
- 松 井：提示した以外にこのようなチームがあったらいい、というご意見はあるか。あまりたくさん出すぎてもまとまらなくなるが、自分のやりたいことがこの5つに含まれないならば検討する必要があると思う。
- 市 民：広報について、環境ニュースは職員の方だけでつくるようになったと思う。この会はまだ発足したばかりだが、この会の活動結果はどのような形でどういう所に知らせるのか。市民にはこの会のことを知らない人が多く、活動を報告する場は必要だと思う。チームとして広報担当というのはいないのか。
- 相澤部長：今日最後にお話しすることになるが、この会を進めていくための運営を担うのがコアメンバーになる。1つの方法として考えられるのは、当初はコアメンバーがこの広報までを担うことか

と思う。もう少し会が大きくなれば、きちんと広報委員会のようなものをつくって、ごみ減量を進める会通信のようなものを定期的に出していくことがぜひ必要だと思う。コアメンバーとはこのことについて話し合いをしていないのだが、とりあえずはコアメンバーの仕事として提案したい。

市民：現在、この会の全体の人数は何人くらいか。

市井：お名前と連絡先を把握している方は、現在約40名である。

市民：今日は欠席している人が多く、このままだと先細りだ。

市井：前回の9月1日に、今後このような活動をやっていきたいと思いますという話が出た段階で、私がやりたかったこととは違うと感じた方もいるだろうし、メンバーは若干減りつつあるのかもしれない。会の活動内容は、現時点ではなかなか説明しにくいですが、今後より明確になってくれば、広く参加を呼びかけやすくなるのではないかと。

市民：ごみを減らすには、やはり市民の意識を高めることが大事だと思う。鎌倉市のごみを減らすためには、もともとは各家庭がごみを自家処理し、自分のごみは自分で処理する、自分の街のごみは自分で処理するというのが基本だと思う。例えば鎌倉市の燃やすごみのうち3割4割が生ごみだが、生ごみ処理機などで家庭での自家処理率が上がれば燃やすごみ量が減る。

3R推進月間について広報に載っていたが、そんなことは知らない市民がたくさんいる。せっかくこのような会議をやるのであれば、各家庭から出るごみをどうすれば減らせるのか、町内会でどういうことをすすめればよいのかを推進するのも1つの方法だと感じる。各家庭からごみが出されているという意識が無ければ、簡単に1万トンなど減らないのではないかと。

市民：広報活動だが、広報課との連携はできないか。例えば広報課長がここに来てくれて、この会の活動を広報課の観点から見てもらうのはどうか。

市井：私はもと環境ニュースの編集委員を4年半やっていた。残念ながら予算が減って、発行回数が減り、編集委員の仕事も無くなった。その時の話では、この新しいチームの中で、広報担当のメンバーをつくりその中で環境ニュースをつくって全面的に任せる予定だと言っていた。

市民にこの会の活動をどのように伝えるのか、いくら活動しても伝わらなければ意味が無いので、広報は重要だと思う。この会のメンバーが環境ニュースをつくるのか、別に機関誌をつくるのか、それとも広報かまくらなどの中に情報を掲載するのかが見えない。コアメンバーの会合ではなく全体会で決めておく必要があるのではないかと。

市民：この会には、今のやり方に反対している議員がたくさんいて予算が全くついていない。でも私たちは議員を相手にしてやっているわけではなく、地球環境の問題で、ごみを集めてプラントで処理するのか、燃やすのかではなく、一人一人が何をすべきかというところを目指して、それを活動の中心に据えながら会の活動を推進できればよいと考える。市長派でもアンチ市長派でもなく、まずは何ができるかからスタートして実績を重ねていことによって、予算を認めざるを得ないという所に持っていくしかないと思っている。

今この会は何をやっているのか外から見たら全く分からない。情報の発信の方法として、コアメンバーがやる案もあるが、今はテーブルについて話し合ったことをだけを情報化する時代ではない。例えばこの会としてホームページをつくってメンバーが発見した情報などを発信するなど、いろいろな情報を盛り込みながら、どなたでも見られる、どなたでも参加できるスタイルにしていくとよい。

市民：前回出席された若い方で、インターネットなどが得意な方もいらっしゃる。今は紙面だけで

はなく、パソコンを通じた広報もある。

市 民：小さなニュースでもよいので見て頂く、子供たちの学習や事業者の方に使っていただけるような情報を載せるとか、常に新しい情報を載せられるようにしていければよい。足踏みしながらなかなか進んでいない感があるので、前に進みたい。

市 民：広報課との連携の話が出たが、これは市民で立ち上げる会なので、いきなり広報課に打診してもらうのではなく、最初は私たち自身で情報発信していく形でやっていき、将来的には市と連携してもよいと思う。市の広報の中で取り上げてもらうのはいいと思うが、情報発信は私たち自身でやっていくのが基本姿勢だと思う。

市 民：「シンプルライフのすすめHPを活用」と書いてあるのは何か。

松 井：ごみの発生抑制を行う「シンプルライフ」というものを広く市民の皆さんに広めることをホームページで情報発信していく活動を、この会でできるのではないかと、というご意見である。

市 民：スリムに生活できる生活の知恵は沢山ある。そういったものは歳をとった人から私たちの次の世代に伝えなければならないのだが、今はなかなか伝わっていかない。

生活の知恵的なものをお伝えすることで、なるほどなと思っただけで、自分の生活を見直す足掛かりにする、そういうことが意外とあると思う。沢山の物に囲まれた私たちの生活だが、実際生活するのに本当にそれだけの物があるのか、物を持つということの大変さもある。生活をシンプルにすることで生活しやすくなる面もある。情報として提供する場があってもいいのではないかと、という提案である。

市 民：これは全体に言える内容なのに、自治町内会を通じた啓発チームに入っているのがちょっと引っかかっている。

松 井：チームの名前に「自治町内会を通じた」を入れるか入れないか、ということか。

相澤部長：PRを行う専門のチームがあった方がよいという趣旨ではないか。新たなチームをつくっても良いのではないかと。

市 民：前回ご出席の若い女性でアプリをつくらと言っていた方がいた。そういう得意な方をお願いするのが良いのではないかと。

相澤部長：市内にあるIT関連会社の方だと思う。本日はご欠席だが、チームができて進んでいけば、何か一緒にできるかもしれない。

市 民：完全に民側の組織としてやっているなら会の判断で広報できるが、行政が入ると行政の判断が入ってきて出せなくなってしまうこともある。

市 民：まずは広報課に頼むのではなく、民の側で情報発信すれば良いのではないかと。

市 民：本当に広報する気であるのなら、決意が必要。チーム全体での情報共有も必要だし、市民に対する広報も必要。いろいろなことをやらないと削減目標は達成できない。

市 民：啓発チームというのは、広報よりイベントを企画するといった内容かと思う。この会議はもう何回もやっているが、できることをすぐに始めたいとすごく思っている。広報が必要かどうかという話し合いが長引くのなら、先に延ばしてもよいと思う。

市 民：すぐに結果が出るものではないが、枠組みとして何ができるかは決めておくべきではないかと。

市 民：私は不用品の交換でごみに関係した活動を行っていることから、できることがあればやりたいという気持ちでここに参加している。ホームページつくることがいいことか分からないが、それに対して我々も参加できればいいと思っている。

もうそろそろ決めてやっていかなければならないし、だれか会長を決めて会長決裁で進めてしま

えばよいのではないか。行政が入ると責任を持って出さなければならなくなるので通らなくなる。それならばむしろ離れてしまえばよい。そうすればどんどん実現することもあるし、この会としてはこういう考え方で1万4千トン減らすんだというやり方もあるのではないか。

市民：屋久島は、世界遺産になる前にもものすごくたくさんのごみがあったそうだ。屋久島の市民はごみを無くそうと立ち上がり、きれいになって世界遺産になった。極端な話だが、鎌倉市では生ごみを各家庭が全部自家処理すればよい。現実には無理だが、そういう意識が出てくれば具体的にごみが減る。どう減らすかを考えなければ、いくら議論しても仕方がない。

市民：議論するだけでなく、もう具体的に動き始めようということで、コアメンバーで今回の提案をした。今日は議論よりも、ぜひ先に進めていこうということで皆さんに集まっていたいている。

相澤部長：啓発広報は、自治会町内会にこだわらず啓発チームに入ることにして、各チームでの話し合いに移りたい。

松井：休憩をはさんだ後、各チームに分かれて頂き、具体的にどんなことができるのか話をし、また今後のために各チームの代表者を決めて頂きたい。各チームでの取り組み内容が具体的に出来れば、今日欠席の方など、そこに参加したいという人も入ってきやすいだろう。

#### 4 チームごとの話し合い

以下の5つのチームに分かれて意見交換を行った。

「生ごみの減量を進めるチーム」

「発生抑制チーム」

「広報・啓発チーム」

「他市の事例研究チーム」

「新たなごみ施策の検討チーム」

#### 5 まとめ

松井：今後の見込みとして、1月に全体会の開催を考えている。その時に、各チームで何をやっているかの紹介ができるとよい。次回に向けて、どのような形であれ各チームでの検討を進めて頂きたい。要望があれば、市の会議室を用意することはできる。

相澤：今日、各チームにどなたが入っているのか、各チーム間で連絡を取り合うにはどうしたらよいのか分かるようにしたい。そうすれば、自主的に話し合いが持てる。1月の全体会の前に、それぞれのチームごとに話し合いを持つことになると思うが、その時に、別のチームとの連携が必要になるかもしれない。

松井：各チームの代表者については、現在各チームにコアメンバーが入っているようなので、コアメンバーとしてもよいか。

市民：新たにコアメンバーに入りたい人がいれば、入ってもらおうということでよいのではないか。

小池次長：各チーム内での連絡先の交換などは、各チームにお任せする。

松井：それでは本日はこれにて終了とする。

以上